

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成30年度 活動報告書



福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

目 次

あいさつ 平成から令和へつなぐエコチル調査

福島ユニットセンター長 橋本 浩一	1
1 エコチル調査の概要	3
(1)背景	3
(2)環境省等による企画・実施	3
(3)調査の内容	3
2 平成22年度から29年度までの主な活動実績	5
(1)リクルート等の実績	5
(2)調査推進のための活動	5
3 平成30年度活動実績	9
(1)リクルート等の実績	9
(2)全体調査	9
(3)詳細調査	11
(4)地域運営協議会	13
(5)市町村訪問	14
(6)協力医療機関訪問	15
(7)教育関連機関訪問	15
(8)広報活動	16
(9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況	25
(10)研修等	27
(11)学術研究	28
(12)エコチル調査でわかってきたこと	30
4 実施体制	31
(1)協力体制	31
(2)福島ユニットセンター実施体制	31
◎ 資料	
1 学術研究の成果	33
2 エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況	34
3 ニュースレター「エコチル☆ふくしま通信」	39
4 エコチルふれあい会の実施状況	43
5 エコチル調査協力医療機関(平成31年3月31日現在)	48
6 平成30年度福島ユニットセンター組織図(平成31年3月31日現在)	50

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター

センター長 橋本 浩一

平成から令和へつなぐエコチル調査

日頃よりエコチル調査へのご理解、ご協力に厚く感謝申し上げます。

平成23年1月から開始されたエコチル調査は8年を経過し、9年目を迎えています。福島県では全県下で、12,344人(対出生数95.1%、平成30年3月末)の児が参加しています。現在5歳から8歳の年齢で実施されている本調査は、子どもの成長とともに生活が変化し、それに合わせて調査実施方法の変化が求められています。平成30年度は、子どもの成長、発達、そして保護者の養育状況に合わせて様々なことに取り組みました。

「小冊子：エコチル調査でわかってきたこと」

出生以来、年2回の質問票は年間約25,000部に達します。一方で参加者からの情報を参加者や関係者に十分に還元できてないということが課題であり、4歳までの質問票の集計結果を冊子にまとめました。福島でのエコチル調査は全県下で実施していますので、福島県のリアルな子育ての状況を垣間見ることができます。当ユニットセンターホームページの「みんなの図書室」から閲覧可能です。また、本調査からの研究結果(論文)は環境省ホームページの「調査の結果」でご覧いただけます。

「環境セミナー」

新企画として、広く環境について学ぶ「環境セミナー」を開催しました。子ども達の成長を保護者と共に見守るお手伝いをし、その中で調査にご協力いただくのがエコチル調査ですが、同時に環境について一緒に学べる機会にしたいと考えています。記念すべき第1回目として、世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)より講師をお迎えし、「外来種って、なあに？」と題したご講演をいただきました。

「小学生対象ふれあい会」

“顔の見える調査”をモットーに、地域の公共施設で子どもの成長に合わせた「エコチルふれあい会」を開催してきました。これまでは保護者と児のふれあいを主目的としてきま

したが、初めて学童向けの「小学生対象ふれあい会」を霊山こどもの村で開催し、創作活動に臨みました。

「子育て講演会&ファミリーコンサート」

毎年「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開催しています。平成30年度はアレルギー専門医による「みんなで守る：食物アレルギーと学校給食について」と題して講演会を開催しました。多くの参加者、関係者が講演に耳を傾けました。

「調査参加者の生活変化に合わせた実施体制」

エコチル調査では詳細調査として全参加者の5%(福島県では約630人)の方に医療機関での診察にご協力をお願いしています。児の就園、保護者の就業など生活が変化し、年齢が上がるほど日程調整が困難となり欠測が増えてきました。特に、夕方の遅い時間、土曜日の実施を望む声があります。令和からのエコチル調査は、これまでの10か所の地域基幹病院に加えて、約20か所の個人医院の協力のもとに実施する体制を整えました。

「小学校入学後のエコチル調査は？」

入学後のエコチル調査はこれまでとは違った大きな2つのポイントがあります。1つ目は就学前まで年2回、誕生日とその半年後に実施されてきた質問票調査が誕生日と学年調査としてそれぞれ1回実施されます。暦年齢ともに学校での学びが子どもの成長に大きな影響を与えるためです。2つ目は小学2年生、6年生時に実施される“学童期検査”です。学童期検査はエコチル調査参加者全員10万人を対象とし、調査会場まで来ていただく対面による調査です。福島ユニットセンターでは県内各地の公共施設等で土日、児童の長期休暇に集団検診方式で実施し、約12,300人の児を対象とします。4歳の年齢幅で実施されている本調査では“学童期検査”は8年間継続されます。令和元年夏からまずは2年生を対象として始まる、“学童期検査”がエコチル調査の成功の明暗を分けます。平成30年度は準備の年として検討を重ねました。

出生コホート研究であるエコチル調査において、児の成長とともに変化する生活への対応が、常に求められています。平成から繋いできた、令和元年からの8年間がエコチル調査にとっての“本命期”です。今後とも関係者の皆さまのご理解、ご協力のもと、子どもの成長に寄り添い、エコチル調査が適切に実施できるよう努めて参ります。

1 エコチル調査の概要

(1)背景

『エコチル』とは、「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせた言葉で、『エコチル調査』は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」の愛称である。

近年、子どもの間では、ぜん息やアトピーなどの疾病が増加しており、その多くは生活環境の中の物質、運動や食事などの生活習慣、遺伝的な要因などが関係しあって起こるとされている。

小児は、各器官の構造や機能が成熟する時期が異なり、また身体的特徴や行動特性によって環境中の有害物に対する特異的な曝露形態があり、化学物質の体内動態にも成人と違いがあるなど、子ども特有の脆弱性が認められる。

このような環境リスクが子どもに与える影響を明らかにするためには、実際の人の集団で観察する疫学的なアプローチが重要であることから、これまでに例を見ない大規模な調査を実施することとなった。

(2)環境省等による企画・実施

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター(国立環境研究所)が実施主体となって、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)及び全国15ユニットセンターの協働により、平成22年度から実施されている。

- ① 平成22年 3 月 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」
基本計画を作成・公表
- ② 平成23年 1 月 「エコチル調査・妊婦さんの参加者募集(リクルート)」を開始
- ③ 平成24年10月 全国15地域を対象に、調査で解析する環境要因に放射線を追加するとともに、福島県における調査対象地域を全県に拡大
- ④ 平成26年 3 月 リクルート終了
- ⑤ 平成26年11月 詳細調査の中の訪問調査(生活環境調査)を開始
- ⑥ 平成27年 4 月 詳細調査の中の医学的検査及び精神神経発達検査を開始

(3)調査の内容

1)調査期間

- ① 平成23年 1 月～平成26年 3 月 参加者募集(リクルート)
- ② 平成23年 1 月～令和 9 年 全体調査
- ③ 平成26年11月～令和 9 年 詳細調査(訪問調査)
- ④ 平成27年 4 月～令和 9 年 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)
- ⑤ 令和 9 年～令和14年 解析

2)調査対象地域

- 全国15地域(北海道、宮城、福島、千葉、神奈川、甲信、愛知、富山、京都、大阪、兵庫、鳥取、高知、福岡、南九州・沖縄)

- 福島の対象地域

平成23年1月～ 県北及び相双地域の10市町村

(福島市、南相馬市^{*}、双葉郡8町村^{*})

※平成23年3月11日以降、東日本大震災及び東京電力福島第一
原子力発電所事故により、リクルートを中断

平成23年6月～ 県北地域の4市町を追加(伊達市、伊達郡3町)

平成24年10月～ 全県域(上記を含めた59市町村)

3)調査対象者

- 調査対象地域に住民票を有し、かつ協力医療機関で出産した母親、子ども及び父親で、エコチル調査に同意をいただいた方
- 全国10万組の母親、子どもを目標参加者数とし、達成した(うち詳細調査は5%の約5,000人)。

4)調査項目

① 母親に実施される項目

- ・ 妊娠初期及び妊娠後期 質問票、採血、採尿
- ・ 出産後 採血、毛髪採取
- ・ 出産後1か月健診時 質問票、母乳採取

② 子どもに実施される項目

- ・ 出生時 臍帯血採取
- ・ 出生後 ろ紙血採血
- ・ 出生後1か月健診時 毛髪採取
- ・ その後半年ごとに13歳まで 質問票
- ・ 8歳、12歳 学童期検査

③ 父親に実施される項目

- ・ 質問票、採血

④ 母親参加者総数の5%の参加者を対象に実施される項目(詳細調査、予定を含む)

- ・ 1.5歳児、3歳児、6歳児以降1～2回 詳細調査(訪問調査)
- ・ 2歳児から2歳ごとに12歳まで 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)

2 平成22年度から29年度までの主な活動実績

(1) リクルート等の実績

1) 平成23年1月から平成26年3月までの母親参加者数(最終リクルート数)

13,131人(全国103,095人)

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ① 平成22年度(平成23年1月～平成23年3月) | 192人 |
| ② 平成23年度(平成23年4月～平成24年3月) | 1,531人 |
| ③ 平成24年度(平成24年4月～平成25年3月) | 4,357人 |
| ④ 平成25年度(平成25年4月～平成26年3月) | 7,051人(リクルート終了) |

2) フォローアップ活動

妊娠初期から生後1か月までは、当ユニットセンター及び協力医療機関において回収状況などの進捗管理を実施し、生後6か月以降は、当ユニットセンターにおいて回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。

また、参加者からの産後の相談や育児相談等に対応した。

(2) 調査推進のための活動

本調査の意義等について、調査開始前から市町村及び関係医療機関等に対し説明を行い、協力体制づくりに努めた。調査開始後においても、県民への周知を図るとともに、参加者の協力を得るため、広報活動に力を注いだ。

また、エコチル調査に関する意義を理解していただき、認知度を高め、一人でも多くの妊婦さんに参加していただくよう様々な活動を展開した。

1) 市町村訪問

調査開始時に県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりリクルートを中断した南相馬市及び双葉郡8町村に対しては、調査開始時に対象地域であったことから、毎年訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査推進等について支援を依頼した。

2) 医療機関訪問

調査開始時に産婦人科52協力医療機関を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

平成25年度 52医療機関を訪問し、リクルート数確保の依頼からリクルート期間終了に至るまでの周知に努めたほか、小児科7基幹病院に対して、詳細調査に係る理解と協力を求めた。

- 平成26年度 42医療機関を訪問し、長期にわたる協力に対し感謝の意を表したほか、10小児医療機関を訪問し、詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)の概要を説明するとともに、実施に向けての課題等を聴取した。
- 平成27年度 疾患情報登録調査の開始に当たり、対象医療機関を訪問し、調査概要等について説明した。
- 平成28年度 詳細調査の協力医療機関を訪問し、2歳児を対象とした調査終了を報告するとともに、4歳児検査の準備に向けての意見交換を実施した。
- 平成29年度 疾患情報調査を依頼する医療機関を訪問し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正による疾患情報提供記録の保管について説明し、依頼した。

3)教育関連機関訪問

平成23年度に出生した子どもたちが、平成30年度には小学校に入学することとなることから、平成28年度から福島県教育事務所及び福島県小学校長会の関係者を訪問し、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めた。

また、訪問時に、地域ごとに設置している福島県地域運営協議会委員への就任について、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の方々に依頼し、承諾をいただいた。

4)地域運営協議会開催

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
2回	3回	4回	5回	5回	5回	5回	5回

5)RC代行研修実施

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3回	5回	19回	9回	8回	6回	5回	5回

6)イベント等開催

平成23年度 参加者を対象に「よみきかせ&エコチルコンサート」を開催
(3月10日福島市)

医療機関スタッフ及び参加者を対象に「放射線に関する講演会」を2回開催
(7月4日福島市、10月9日福島市)

平成24年度 県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を2回開催
(10月28日本宮市、11月3日福島市)

平成25年度 県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を4回開催

(6月15日会津若松市、7月13日いわき市、11月10日郡山市、
11月16日福島市)

キャラクター「こぼちる」の発表及び命名者の表彰式

(11月10日郡山市におけるエコチルコンサート会場)

平成27年度 県民及び参加者を対象に「子育て講演会&コンサート」を開催

(11月14日郡山市)

平成28年度 県民及び参加者を対象に「子育て講演会&クリスマスコンサート」を開催

(11月27日福島市)

平成29年度 県民及び参加者を対象に「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開催

(8月27日郡山市)

7)ふれあい会開催

対 象 者	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
6か月児及びその親	3回	3回	28回	4回	－	－
1.5歳児及びその親	－	2回	5回	19回	6回	－
3歳児及びその親	－	－	2回	11回	8回	6回
5歳児及びその親	－	－	－	－	2回	5回
親子対象	－	－	－	1回	4回	－
保護者対象	－	－	－	－	－	9回

8)広報活動

① マスコミでのPR

テレビ、ラジオ、新聞、地域情報誌にCM記事の提供と広告の掲載

② ニュースレターの発行

参加者向けに「ふくしまエコチル新聞」(平成26年度に「エコチル☆ふくしま通信」にリニューアル)を発行

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
2回	2回	1回	2回	4回	4回	4回

③ 市町村広報紙等への記事掲載

平成23年度	平成24年度	平成25年度
5回	12回	8回

④ 活動報告書の発行

名 称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
エコチル★活動報告(市町村向け)	9回	5回	－	－	－
エコチル★だより(医療機関向け)	12回	12回	9回	12回	12回

⑤ 市町村イベントへの参加

市町村が主催するイベントのブースに出展し、エコチル調査について周知

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
4回	2回	4回	3回	4回

⑥ メールマガジンの配信

大学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する
「情報発信：エコチル調査」を配信

平成29年度
12回

3 平成30年度活動実績

(1) リクルート等の実績

1) リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯 (表1)

福島ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変した。南相馬市の一部地域及び双葉郡は立入禁止区域となり住民は各地に避難し、リクルートを中断した。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となりリクルートを行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの登録は、母親が出産し1カ月健診終了の同年12月まで実施した。

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～26年3月(3年2カ月)	平成24年10月～26年3月(1年半)

2) 母親、父親及び子どもの参加者数

平成28年度中に、参加者登録状況についてデータクリーニング及び確認作業を行った結果、母親のリクルート数はのべ13,131人、父親のリクルート数は8,694人、子どもの出生数は12,867人となった。

子どもの参加者年齢は、平成31年3月31日現在で4歳4カ月～7歳8カ月であり、4歳までのエコチル調査は終了した。

(2) 全体調査

1) 質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は、参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとにコアセンターから参加者宅へ発送され、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

平成30年度は、3.5歳児から7歳児、小学1年までの計8種類、総計24,056部の質問票を発送した。4歳児質問票は平成30年11月に全ての発送を終了し、新たに7歳児質問票が6月か

ら発送を開始した。また学童期から質問票の発送は、誕生月と小学1年質問票を秋頃に一斉発送と変更になった。(表2)

表2 平成30年度 質問票調査発送数

質問票種類	3歳	3.5歳	4歳	4.5歳	5歳	5.5歳	6歳	7歳	小学1年
福島本部事務所	0	27	902	1,814	2,026	1,919	1,679	952	901
郡山事務所	0	97	2,102	4,074	4,241	2,611	574	53	48
計	0	124	3,004	5,888	6,303	4,530	2,253	1,005	949

平成31年3月26日現在の質問票回収率(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に低下している。全国15ユニットセンターの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移してきたが、一時的に低くなる状況も見られるようになった。現在、質問票が発送後5週間以上返送されない場合、返送を促す等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

表3 質問票調査実施状況(平成31年3月26日現在)

質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)	
			福島	全国平均
6か月	12,832	12,440	96.9	94.1
1歳	12,737	11,986	94.1	91.3
1.5歳	12,692	11,555	91.0	89.2
2歳	12,655	11,099	87.7	87.2
2.5歳	12,632	10,742	85.0	85.6
3歳	12,607	10,425	82.7	84.2
3.5歳	12,570	9,977	79.4	81.6
4歳	12,417	9,633	77.6	80.2
4.5歳	9,509	7,179	75.5	78.3
5歳	6,345	4,658	73.4	76.2
5.5歳	3,192	2,400	75.2	77.2
6歳	1,770	1,336	75.5	77.1
7歳	332	237	73.6	75.8
小学1年	949	774	76.0	76.3

2) 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、子どもが特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ二次調査票の記入を依頼するものである。

対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がん、精神神経発達障害ある。

参加者が診断治療を受けた県内外医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

3) フォローアップ状況

調査参加者が、福島ユニットセンターから他ユニットセンター対象地域に転居する場合又は他ユニットセンターから福島県内へ転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外へ転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所のあて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者へは、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

母親の妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能な状況であるが代諾者(主に母親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。

平成30年度の子どもの調査取りやめ件数は 51件で理由は多忙、質問の回答が負担、子ども・母親の健康状態、家事都合などであった。

4) フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニュースレターの発行などを実施している。
(P. 7)広報活動参照)

(3) 詳細調査

1) 精神神経発達検査(新版K式発達検査)及び医学的検査の実施

平成29年4月から4歳精神神経発達検査、同年5月から医学的検査を実施した。

精神神経発達検査 訓練を受けた検査者の面談による検査を実施

医学的検査 身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施

① 協力病院・施設

詳細調査の精神神経発達検査及び医学的検査を実施するため、表4の協力医療機関・施設に協力を得た。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員(心理士)が出向いて検査を実施した。

表4 詳細調査協力医療機関・施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	精神神経発達検査
1	公立藤田総合病院	○	検査会場借用
2	大原総合病院	○	
3	福島県立医科大学附属病院	○	○
4	公立相馬総合病院	○	検査会場借用
5	星総合病院	○	○ ^{※1}
6	太田西ノ内病院	○	○
7	白河厚生総合病院	○	検査会場借用
8	竹田総合病院	○	○
9	福島県立南会津病院	○	検査会場借用
10	いわき市医療センター	○	検査会場借用 ^{※2}
11	国立病院機構福島病院 ^{※3}	○	
12	第二子どもの家		○
13	子どもの家保育園		○

※1 検査者の都合で平成29年10月～平成30年1月にかけ場所のみ借用した。

※2 精神神経発達検査の欠測を減らすため平成29年6月から場所のみ借用した。

※3 医学的検査の欠測を減らすために平成30年4月から協力を得た。

② 4歳精神神経発達検査及び4歳医学的検査実施件数

精神神経発達検査	平成29年4月～平成30年3月	340件	
	平成30年4月～平成30年12月	218件	計558件(完了)
医学的検査	平成29年5月～平成30年3月	302件	
	平成30年4月～平成30年12月	236件	計538件(完了)

<各協力医療機関・施設訪問>

平成30年12月～

4歳医学的検査および発達検査が終了したことに伴い、各協力医療機関・施設を訪問し、お礼を述べるとともに6歳医学的検査について説明した。検査上の問題や課題について相談するとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聴いた。併せて平成31年度の検査体制についての変更点を確認し、引き続き検査への協力を依頼した。

6歳からの新規協力医療機関へは、6歳医学的検査について協力依頼し必要事項の説明・確認をするるとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聴いた。

<6歳医学的検査に向けたアンケート調査>

4歳医学的検査では、保護者の「仕事の都合」などで協力できない参加児が1割を超えた。そこで、保護者が都合をつけやすい曜日・時間帯に、医学的検査を実施できる医療機関に

協力を得るためアンケート調査を実施した。

平成30年4月 保護者対象のアンケート

平成30年7月 福島県小児科医会へのアンケート

平成30年9月 協力を得る医療機関へのアンケート

2) 詳細調査関連会議等

① 検査担当者の情報交換会

平成30年9月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

② 新版K式発達検査リーダー・検査者会合

平成30年7月 発達検査リーダー会合(東京・Web)

平成31年2月 発達検査リーダー会合(東京・Web)

③ メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)とのWeb会議

平成30年4月～平成30年9月 計5回

④ 精神神経発達検査定例会

平成30年5月～平成31年3月 計10回

出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、

福島県立医科大学小児科医、リサーチコーディネーター

⑤ 詳細調査担当リサーチコーディネーター会議

平成30年4月～平成31年3月 計13回

3) 研修会・講習会・認定試験

平成30年12月 6歳詳細調査説明会(東京) 受講者12名

平成31年1月 6歳医学的検査説明会(郡山市)

参加者(担当医師・看護師) 計23名

平成31年1月 6歳医学的検査説明会(福島市)

参加者(担当医師・看護師) 計16名

(4) 地域運営協議会

1) 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績

や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

2)開催状況

平成30年度も、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。

表5 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	平成30年7月23日(月)	福島市
2	県北・相双地域運営協議会	平成30年10月1日(月)	福島市
3	会津地域運営協議会	平成30年10月11日(木)	会津若松市
4	県中・県南地域運営協議会	平成30年11月19日(月)	郡山市
5	いわき地域運営協議会	平成30年11月30日(金)	いわき市

3)内容

- 環境省・コアセンターから全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をいただいた。
- 本県のエコチル調査の活動状況、環境省からの年次評価、質問票集計中間結果等について報告した。
- 参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待すること・要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。



福島県地域運営協議会(平成30年7月23日：福島市)

(5)市町村訪問

平成30年9月に、毎年実施している市町村訪問を行った。

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(6)協力医療機関訪問

疾患情報登録調査を依頼する医療機関を訪問し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正により、医療機関に疾患情報提供記録を保管していただくよう説明を行った。

また、平成29年度より開始した詳細調査について、小児科のある二次医療機関の協力を得て、4歳時医学的検査・精神神経発達検査を実施した。

令和元年度より開始予定の詳細調査・6歳医学的検査に向けて実施率を維持する目的で、新たに21の一次医療機関に協力をお願いした。県内32の協力医療機関への説明会・訪問を行い6歳医学的検査の準備を進めた。

(7)教育関連機関訪問

平成30年5月から6月にかけて、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の方々を訪問し、エコチル調査について説明の上、調査への理解と協力を求めるとともに、福島県地域運営協議会委員への就任を依頼し、承諾をいただいた。

また、平成30年5月に、福島県内59市町村の教育委員会で構成する福島県市町村教育委員会連絡協議会の定期総会において、エコチル調査について説明を行い、理解と協力を求めた。

(8) 広報活動

1)子育て講演会&ファミリーコンサートの実施

開催日：平成30年9月2日(日)

開 催 地：福島市

会 場：福島県立医科大学講堂

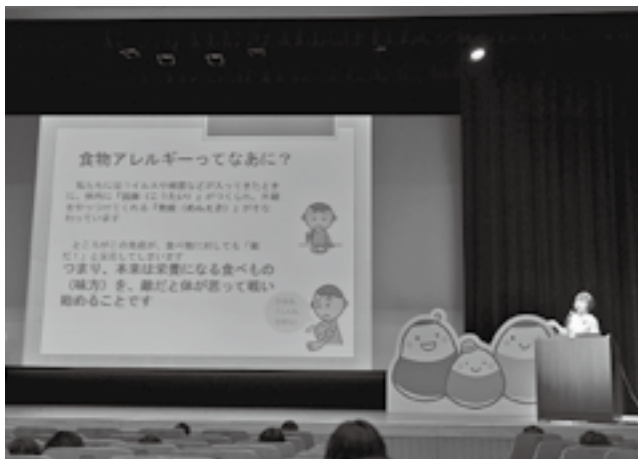
参加者数：305名

福島ユニットセンターに属する参加者へのフォローアップ率維持及び県民に対するエコチル調査の認知度向上及び協力体制の構築を目的としたイベントを開催した。調査参加者をはじめ、全県域の関係機関、公共施設等に対しチラシを配布するなどの広報を実施した。また、フリーペーパーに広告を掲載、地元新聞社にはイベントの開催をお知らせした。

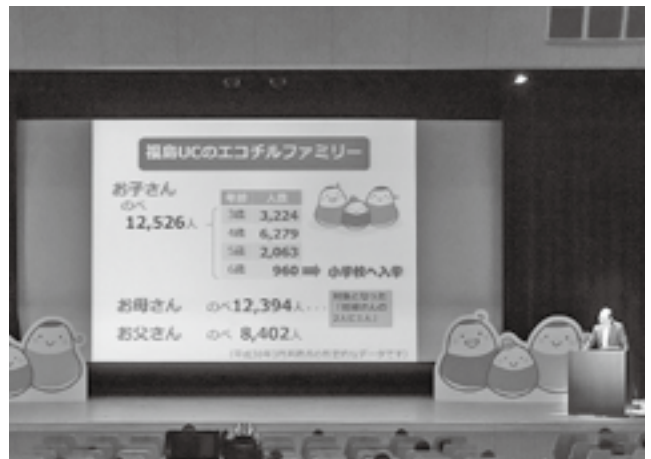
エコチル参加者の関心が高い子育てに関するテーマの講演会と親子で楽しめるファミリーコンサートの2部構成とした。第1部においては、事前申込制による託児室を併設し、公益財団法人星総合病院 診療部長兼小児科部長 佐久間弘子先生による講演や、当ユニットセンター長による調査の進捗状況や集計結果の報告を行い、第2部では、井上あずみ&ゆうゆうによるミュージックライブを行った。

会場内に、調査の最新データなどのパネルを掲示するとともに、子育てや医療に関する相談コーナーを設置した。





公益財団法人星総合病院
 診察部長兼小児科部長 佐久間弘子先生
 子育て講演会
 演題：「みんなで守る：食物アレルギーと学校給食について」



福島ユニットセンター長 橋本浩一
 報告：「エコチル調査でわかったこと」



ファミリーコンサート
 「井上あずみ&ゆう ゆ ミュージックライブ」
 調査参加者の対象児(4～7歳)と親子で楽しめるコンサート
 ジブリ映画の主題歌や、参加型クイズなどで会場が一体となった



託児室の開設(事前申込制)



エコチル調査の概要や集計データのパネル掲示



熱中症対策のためホワイエ内モニター前に給水場を設置し、安心して参加できる環境を整備した

エコチル★ふくしま
子育て講演会&ファミリーコンサート

入場無料 **480名**
申込者多数の場合は抽選となります

2018年 **9月2日**
14:00~16:00 (開場13:30)
福島県立医科大学講堂 (福島市光が丘1番地)

第1部
エコチル調査でわかったこと
子育て講演会
「みんなで守る:食物アレルギーと学校給食について」
佐久間 弘子 氏

第2部
井上あずみ&ゆーゆー
ミュージックライブ

お問い合わせ先
エコチル調査福島ユニットセンター福島本部事務所
TEL.024-547-1449 (受付:平日のみ 9:30~17:00)

申込方法 事前申込み必要
エコチル★ふくしま ホームページのエコチル★ふくしま
主催イベントのご案内から申込みください。
またはチラシ裏面のFAX専用申込書でお申し込みください。
エコチル★ふくしま 福島本部事務所

リビング福島 広告掲載

Japan Eco&Child Study
エコチル★ふくしま

子育て講演会&ファミリーコンサート

2018年 **9月2日**
14:00~16:00 (開場13:30)
福島県立医科大学講堂 (福島市光が丘1番地)

入場無料 **480名**
申込者多数の場合は抽選となります

第1部
エコチル調査でわかったこと
子育て講演会
「みんなで守る:食物アレルギーと学校給食について」
佐久間 弘子 氏

第2部
ファミリーコンサート
井上あずみ&ゆーゆー
ミュージックライブ

申込方法 事前申込み必要 7/15日~8/12日
エコチル★ふくしま ホームページ エコチル★ふくしま 主催イベントのご案内から、
またはチラシ裏面のFAX専用申込書でお申し込みください。
お問い合わせ先 エコチル調査福島ユニットセンター 福島本部事務所
TEL.024-547-1449 受付:平日のみ9:30~17:00

元気ッズ!ふくしま 広告掲載

「トトロ」井上さんライブ
福島医大講堂で子育て講演

福島医大エコチル調査福島ユニットセンターなど主催の「エコチル★ふくしま」子育て講演会&ファミリーコンサートが9月2日(土)午後2時から福島市の福島医大講堂で開かれる。

「子どもの健康と環境に関する全国調査」(略称「エコチル調査」)の福島県エリアを担当する同センターが、調査に協力している親子へのお礼と、一般への事業PRのため毎年開催しているイベント。

前半では、星総合病院(郡山市)の佐久間弘子診療部長が「みんなで守る食物アレルギーと学校給食について」と題して講演する。

後半は、「となりのトトロ」などの映画主題歌で知られる歌手、井上あずみさんと、井上さんの娘ゆーゆーさんの親子ライブが開かれる。

入場無料。定員480人で、申し込み多数の場合は抽選。抽選結果は入場券の発送をもってかえる。締め切りは27日。託児あり(2人まで。事前申し込みが必要)。

観覧希望者はエコチル★ふくしまホームページ(www.ecochil.jp)から、またはファクス専用申込書(チラシの裏面)に必要事項を記入し事務局に送る。問い合わせはエコチル調査福島ユニットセンター(平日のみ午前9時30分~午後5時、電話024・547・1449)へ。

講演会&コンサートのポスター

福島民友 8月14日掲載

子どもの健康考えて

来月2日 福島医大で講演、演奏会

福島医大エコチル調査福島ユニットセンター(エコチルふくしま)は9月2日、福島市の学内で「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開きます。事務局次長の佐藤祐一さん(62)＝写真中央＝は「どなたでも気軽に足を運んでください」と話しています。

星総合病院診療部長で日本アレルギー学会専門医の佐久間弘子さんが「みんなで守る食物アレルギーと学校給食について」をテーマに講演します。引き続き、スタジオジブリ作品の主題歌などを歌う歌手の井上あずみさんと、娘のゆーゆさんがミュージックライブを繰り広げます。

- ▶会場＝福島医大講堂(福島市光が丘1)
- ▶時間＝午後2時～4時
- ▶申し込み＝27日までに電話かホームページで

メモ

☎024(547)1449

(エコチル調査福島ユニットセンター)



子どもの健康と環境中の化学物質の関わりを調べるエコチル調査の報告もあります。



福島民報 8月16日掲載

子どもの健康と食 解説

福医大で講演、コンサート



ジブリの曲を披露する井上さん(右)、ゆーゆさん

福島医大エコチル調査福島ユニットセンター「ファミリーコンサート」

トは二日、福島市の同大講堂で開かれた。親子連れ約三百人が来場した。橋本浩一センター長が、子どもの健康と環境中の化学物質の関わりを調べるエコチル調査の途中経過を報告した。引き続き、星総合病院診療部長の佐久間弘子さんが「みんなで守る食物アレルギーと学校給食について」と題して講演し

◆「過去最高の人出でした」と話すのは福島市の福島わらじまつり実行委員長の小荷目出男さんです。この夏のわらじまつりの来場者は、開催二日間で計二十九万三千人に上りました。「福島は元気のあふれるまち」と改めて感じました」と笑顔を見せています。

かわら版

◆二本松市の居温泉観光協会の事務所が山小屋風に一新されました。受け付けのカウンターの板張りとなり、蛍光灯を外してランプが取り付けられました。おしゃれなソファも置かれ、事務局長の山谷勝敏さんは「ゆっくりとくつろいでください」と呼び掛けています。

た。スタジオジブリ作品「手・井上あずみさん」と、娘のゆーゆさんに「手・井上あずみさん」の主題歌などを歌う歌「よるファミリーコンサ」を過ごした。

福島民報 9月4日掲載

2)エコチル★ふくしま 環境セミナーの実施

開 催 日：平成31年2月10日(日)

郡山市ミューカルがくと館

対 象 者：エコチル参加者・一般の方

参加者数：32名

講 師：世界自然保護基金ジャパンWWFジャパン 松浦 麻子先生

目 的：調査参加者様の環境問題に対するご関心などにお応えすることを目的に開催した。
福島ユニットセンターでは初めての催しとなる。

内 容：テーマ「外来種って、なあに？」について、90分の講演。

来場者から「外来種についての知識はあったが、理解を深めることができた」、「外来種の生き物が身近にあふれていることを知り、驚いた」、「今日学んだことを周りの人にも伝えていきたい」、「次回は環境への影響や人への影響についてなども、具体的にきいてみたい」などの感想が寄せられ、外来生物の問題を身近に感じ、より興味を持っていただけた。

会場には、環境省より借りた「ケミカルパズル」や「ケミカルすごろく」を設置し、身近な化学物質についても、分かりやすく理解を深めていただくことができた。



3)エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとがコミュニケーションを持ち、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、これまで子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

平成30年度は、学童を対象とした親子ふれあい会を新たに企画し開催した。

ふれあい会の対象と内容は表6のとおりである。

表6 ふれあい会の対象と内容

対象	ふれあい会の内容
3歳児	①親子ダンス(3B体操、キッズダンス) ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
4-6歳児	①親子リトミック ②キッズダンス ③小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
保護者	①子育てに関する参加型ワークショップ ②笑いヨガ ③子育て相談 ④ストレッチ ⑤茶話会(保護者同士のふれあい・スタッフとのふれあい・相談など)
学童	①霊山子どもの村(ワークショップ) ②小児科医のミニ講話

平成30年度ふれあい会の実施回数は16回、参加親子組数は計200組であった。(表7)

表7 ふれあい会開催状況

対象児	平成24-29年度(6年間)		平成30年度		計	
	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	40	806			40	806
1.5歳児	33	582			33	582
3歳児	27	325			27	325
4-6歳児	7	110	8	137	15	247
親子対象	5	81			5	81
保護者対象	9	69	7	50	16	119
学童対象			1	13	1	13

4)ニューズレターの発行

2018年夏号(平成30年7月)及び2018年秋号(平成30年9月)、2018年冬号(平成30年12月)、2019年春号(平成31年3月)の4回発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,000部、市町村等関係機関あて約750部、計12,750部発送)(資料3参照)

精神神経発達検査及び医学的検査の13協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査★だより」を毎月発行した。詳細調査の進捗状況、取り止め数、未実施(欠測)数、精神神経発達検査及び医学的検査月別検査予定数、参加者への結果報告書の送付数などについて報告した。(第34号～第45号まで発行)

※第2期への結果報告書の送附先（2017年度1月末現在）

送附先	4 歳児発達検査	4 歳児医学的検査
2017年7月 ～2019年1月	440	491

※医療法人

※4 歳児医学的検査 国立医療機関（全 32 医療機関）

4 月からは以下の医療機関が皆さまにご協力いただくことになりました。

※ 表 1：立川総合医療院、大塚総合病院、塩巻東山医院と大塚、羽田小児科、いちのわクリニック、
竹内こどもクリニック、いももこどもクリニック、おひさき子供クリニック、土川内科小児科

※ 表 2：豊島総合病院、太田西ノ内病院、国立病院機構塩巻病院、いはいりこどもクリニック、
あおのこどもクリニック、あおがこどもクリニック、おひなこどもクリニック、晴海病院、
久米こどもクリニック、じんぎッズクリニック、さのりや病院クリニック、
すみこどもクリニック

※ 表 3：白河厚生病院、なもとキッズクリニック、わたなべクリニック

※ 表 4：竹田総合病院、坂下厚生病院、いとうちこどもクリニック

※ 表 5：東上岡医療病院

※ 表 6：立川総合医療院、第2のほなこどもクリニック

※ 表 7：いわた市医療センター（※ いわた市立総合医療院と立川病院、森のこどもクリニック

これまで2歳、4歳児の医学的検査にご協力いただいた医療機関の皆さまには
御礼報告、ご厚謝とご協力をお願いいたします。

※4 歳児医学的検査 検査項目について

4 歳児医学的検査の内容で新たに追加となった項目についてお知らせします。

1. 身体測定

- ・体重測定（2回測定、看護師の皆さまには一緒に測定をお願いします。）
- ・アームスパン（2回測定、看護師の皆さまには一緒に測定をお願いします。）
- ・体格計（1回測定、体格計計測の入力、操作はエナジースタッフがいたします。）

2. 血液検査

- ・採血量 4ml（2歳、4歳） → 10ml（6歳）
- ・採血量 1本（2歳、4歳） → 2本（6歳）
- ・測定項目の追加 ① Gp-1（インスリン抵抗性因子）

※4 歳児医学的検査終了による協力施設について

現在、4 歳児の4 歳児医学的検査の依頼をさせていただくため医療機関訪問させていただいてお
ります。6 歳児の検査は4 月からの開始を目標に準備を進めています。

【編集・発行】 塩巻国立医科大学 エナジー推進 塩巻ユニネットセンター

（塩巻本部事務局） FAX02-1255 塩巻市7575-1 1階

TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448

（宮・山・東・部） FAX02-9224

仙台市青葉区3丁目6-4 レジデンス新緑2ビル2階

TEL 024-983-4793 FAX 024-983-4751

〒981-8502 仙台市青葉区3丁目6-4

6) メールマガジンの配信

大学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信：エコチル調査」を計11回配信

送信日	トピック	論文紹介
平成30年 4 月26日	エコチル調査とは／エコチル調査の目的／福島県内の調査地域は？ エコチル調査の参加状況	
5 月24日	協力体制は？	妊婦のカフェイン含有飲料の消費量と血清葉酸濃度
6 月28日	参加者の生活変化に合わせた実施体制	エコチル調査に関する暴露評価の計画と課題に関する総説
7 月26日	東日本大震災後に調査対象地域が拡大されたエコチル調査	妊婦の血液中重金属濃度と早産の関係
8 月23日	「子育て講演会&ファミリーコンサート」の開催	母親のアレルギー疾患とSmall-for-Gastational-Age (SGA) の関連について
9 月27日	オール福島で実施されているエコチル調査	つわりの程度と早産リスクの関連性について
10月29日	エコチル調査でのデータを利用して研究をするには？	生殖補助医療による妊娠における精神的ストレス
11月29日	質問票回答結果をリーフレットにまとめました	母親の自閉症傾向特性と子どもへの愛着形成との関連性について
平成31年 1 月24日	教養講座、環境セミナーを開催します	
3 月 1 日	「環境セミナー」を開催しました	食事からのイソフラボン摂取と尿道下裂との関連性について
3 月28日	「学術ワーキンググループ(WG)会議」 「学内報告会」を開催しました	魚介類／n-3系多価不飽和脂肪酸摂取と、アレルギー性疾患との関連

7)市町村主催のイベントへの参加

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、市町村が主催するイベントのブースに出展し、活動内容や調査でわかったことなどについて広報活動を行った。(表8)

表8 市町村主催イベントへの参加状況

主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	こどもまつり	平成30年5月5日(土)
福島市	公立藤田総合病院健康フェスタ	平成30年5月12日(土)
郡山市	ファミリーフェスタ郡山	平成30年9月30日(日)
会津若松市	会津健康まつり	平成30年9月30日(日)
福島市	福島市健康フェスタ	平成30年10月14日(日)



こどもまつり



公立藤田総合病院健康フェスタ



ファミリーフェスタ郡山



会津健康まつり



福島市健康フェスタ

8)グッズの作成等

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、全調査参加者にオリジナルカレンダー及びクリアファイル、3歳児にはハンドタオル、小学校の新入児童には入学お祝いとしてエコチル名入り鉛筆をそれぞれ贈呈した。

また、ふれあい会や市町村イベント等においては、ティッシュやボールペン等を配布し、広報活動に努めた。

(9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみの父親および銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した母親または父親について、12,154名(平成31年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

3)その他

これまでnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について、発行時における取扱説明書の配付、ニューズレターでの定期的なお知らせ、エコチルカレンダーの1面を使っての案内等により参加者全員に対し周知を図ってきた。

平成30年度には、nanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について周知徹底を図るため、これまでの方法に加え新たに次の方法により注意喚起を行った。

- ①質問票郵送時にnanacoポイント有効期限・ポイント交換案内のチラシ(A4 1枚)を同封【図1】
- ②ニューズレター発送用封筒に、nanacoポイント交換案内を掲載【図2】

- ③ニューズレター夏号のトップページ下段にnanacoポイント有効期限・ポイント交換案内の記事を掲載
- ④平成31年3月末までにnanacoポイントが失効する可能性のある参加者へ案内はがきを送付【図3】

【図1】

エコチル調査参加者の方へ

nanaco ポイントは、有効期限内に電子マネーに交換を！

質問票のご記入や、詳細調査にご協力いただいた際には、謝礼をエコチルふくしま専用 nanaco カードへ「nanaco ポイント」を付与しています。

※電子マネーとは、厳密には、nanaco カードが使えるお店やセブン銀行 ATM で、ポイント残高を現金に換えることができます。

付与した nanaco ポイントは、電子マネーに交換しなければ、お買い物にご利用することはできません。

ポイントには有効期限があります。ご注意ください。

有効期限	1年以内	2年以内	3年以内	4年以内
ポイント付与期間	4月	5月	6月	7月
ポイント有効期限	3月	4月	5月	6月
ポイント失効期間	4月	5月	6月	7月

※ポイントから交換した電子マネーには有効期限はありません。

ポイント交換は、お近くのセブンイレブン、ヨークベニマル、デニーズ、イトーヨーカドーのレジ、サービスカウンターで可能です。

お店の担当の方へ電子マネーへの交換を申し出てください。

※お支払いは現金可能な場合が限られていますので、お店にてお問合わせください。

ポイントを電子マネーに交換します。

ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

エコチル調査事務局
〒960-1296 福島県福島市光が丘1番地
TEL.024-547-1449
受付：月～金 9:30～17:00
福島市役所 024-983-4780

【図2】

エコチル調査事務局
電子マネー

～エコチル調査参加者の皆様へ～

nanacoカードに付与されたポイントには有効期限があります。お早めにご交換ください。

福島大学入 福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

□ 福島本部事務所 郡山
〒960-1296 福島県福島市光が丘1
TEL.024-547-1449 FAX.024-547-1448

□ 郡山事務所
〒963-8524 郡山市制3丁目6番4号
レジデンス803 第2ビル2階
TEL.024-963-4780 FAX.024-963-4751

子どもの健康と未来に関する全国調査
http://www.ecochiru.jp/

【エコチルふくしま】 検索

024-547-1449 024-983-4780 024-547-1449
エコチル調査ホームページ http://www.ecochiru.jp/

【図3】

エコチル調査 nanaco カードをお持ちの皆様へ

注意

エコチル調査の nanaco カードのポイントが失効する可能性があります！

2019年3月31日までにポイントを電子マネーに交換してください。

<交換方法>
nanaco カード加盟店で、nanaco カードを手渡し、「ポイントを電子マネーに換えてください」とお伝えください。

※ご不明な点は以下お問い合わせ先にご連絡ください。

<お問い合わせ先>
エコチル調査福島ユニットセンター福島本部事務所
〒960-1296 福島県福島市光が丘1番地
TEL.024-547-1449（平日のみ 9:30～17:00）

電子マネーカード



(10)研修等

1)RC代行研修

平成30年度は、ユニットセンター職員等9人に対して入職時に6回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計66回、受講者は計657名となった。

2)他ユニットセンターとの情報交換会

宮城、富山の各ユニットセンターを訪問し、情報交換を行った。(表9)

表9 他ユニットセンターとの情報交換会

訪問先	訪問日	訪問職員	情報交換の内容
宮 城	平成30年11月30日(金)	RC職員2名 事務職員1名	・ユニットセンター質問票発送業務移管に関わる情報交換 ・調査業務全般についての情報交換
	平成30年12月19日(水)	教員1名 事務職員1名	
富 山	平成31年3月9日(土) ～平成31年3月10日(日)	教員1名 RC職員2名 事務職員2名	・公開セミナーへの参加 ・成果発表に関わる情報交換

3)職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

① 平成30年4月、10月

男女共同参画の推進

② 平成30年7月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理

教養講座「職場のメンタルヘルス」

(福島県立医科大学 大学健康管理センター 松本貴智先生)

③ 平成31年2月

全体調査及び詳細調査の状況、学童期検査及び質問票発送業務の準備状況、

個人情報管理、リスク管理

教養講座「環境化学物質の健康影響とエピジェネティクス」

(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター 野原恵子先生)

4) 他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査スタッフ研修(平成30年10月実施)及びリスクコミュニケーション研修(平成31年1月実施)に積極的に参加した。

(11) 学術研究

1) エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置した。

平成30年度は、「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を平成30年10月10日及び平成31年3月20日の2回開催した。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

2) 中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が平成30年8月9日及び平成31年3月8日の2回開催された。

当ユニットセンターでは、6名の教員が積極的に参加し、中心仮説に関する研究計画について討論した。

3) 学会発表・論文執筆

① 論文執筆

- ・ The Effect of Maternal Age at the First Childbirth on Gestational Age and Birth Weight : The Japan Environment and Children's Study (JECS)
母体年齢が初回分娩における妊娠週数, 出生体重に与える影響(エコチル調査)
経塚 標 他 J Epidemiol. 年 : 2019 月 : 5 巻 : 29(5) 頁 : 187-191
オンライン掲載 2018年8月4日
- ・ The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture : Pregnancy Outcome after the Great East Japan Earthquake
(福島県のエコチル調査 : 東日本大震災後の妊娠帰結)
経塚 標 他 Tohoku J Exp Med. 246巻(1)P27-33 2018.9
- ・ Risk of preterm birth, low birthweight and small-for-gestational-age infants in

pregnancies with adenomyosis : A cohort study of the Japan Environment and Children's Study.

子宮腺筋症が分娩週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)

山口明子他 Acta Obstet Gynecol Scandinavica. 2019.3巻 : 98(3) P359-364

オンライン掲載 2018年10月26日

- ・大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～

尾形優香他 福島県保健衛生雑誌 33巻 P52-57 2019.3

②学会発表

- ・平成30年10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会
出生コホート調査における現参加者数維持のためのコミュニケーション活動とその課題,
佐藤晶子
- ・平成30年10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会
大規模出生コホート調査における発達検査の実施状況と課題(エコチル調査より),
尾形優香
- ・平成30年10月26日 国際シンポジウム
子どもの環境保健研究の公衆衛生学的意義：エコチル調査等の出生コホート研究の地域
公衆衛生活動への貢献, 「東日本大震災の復興とともに歩む福島県でのエコチル調査」,
橋本浩一
(追加調査)
- ・平成30年 7 月 8 日～10日 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会
ヒトパレコウイルス 3 型HPeV3に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子と
の関連,
清水裕美 他
- ・平成30年 8 月30日～31日 第42回日本産科婦人科栄養・代謝研究会
メタボローム解析を用いた早発妊娠高血圧症候群における妊娠初期血液代謝産物の網羅
的解析,
経塚標 他
- ・平成30年10月11日～13日 第59回日本児童青年精神医学会
福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコ
チル追加調査-,
板垣俊太郎 他

(12)エコチル調査でわかってきたこと

エコチル調査の結果を参加者や関係者に広く知らせるため、これまで参加者の皆様からご提出いただいた質問票の中から、特に関心が高いと思われる項目について福島県のデータを中心に集計しグラフ化してまとめた小冊子を平成30年11月に作成し、参加者及び関係者に配付した。

また、多くの方にご覧いただくために、福島ユニットセンターホームページ(<http://www.ecochil-fukushima.jp/>)の「みんなの図書室」に掲載した。



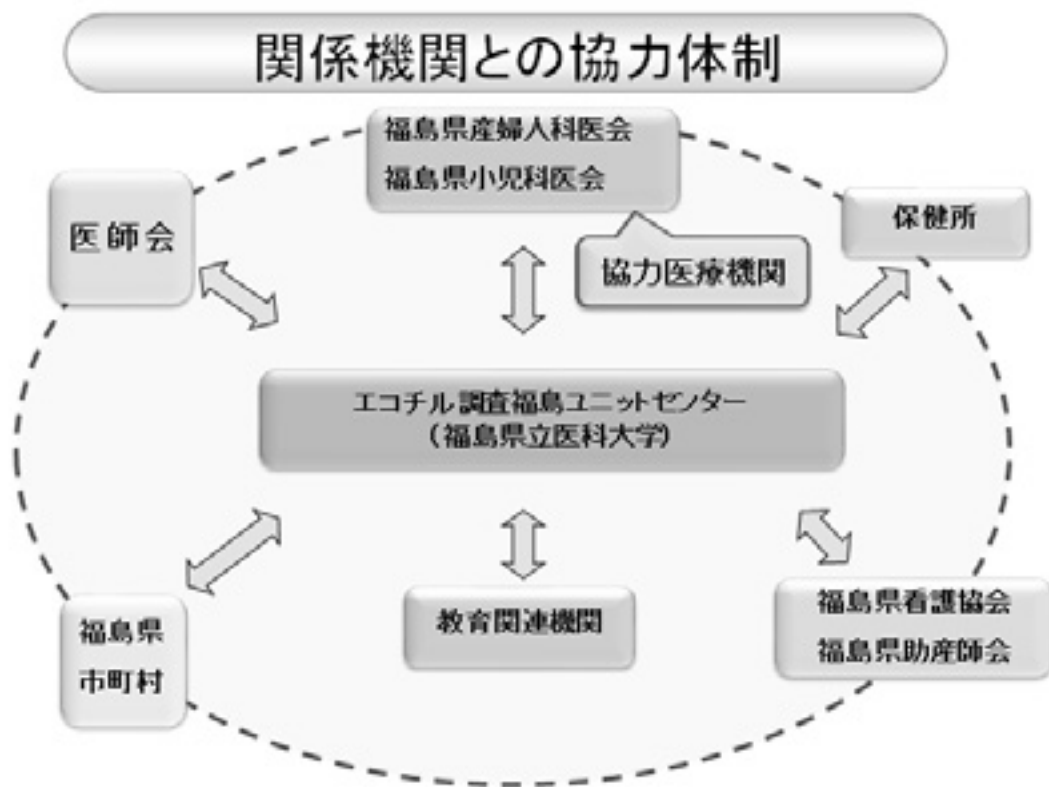
4 実施体制

(1) 協力体制

福島県内の行政機関や医療機関など各分野の関係者の協力をいただきながらエコチル調査を進めた。

また、福島県、市町村、保健所、教育関連機関、医師会、看護協会、助産師会、産婦人科医会、小児科医会及び協力医療機関等の関係者に「エコチル調査福島ユニットセンター地域運営委員会」の委員になっていただき、エコチル調査の円滑な推進に向けて貴重な意見をいただいた。

特に、教育関連機関においては、平成28年度から福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の方々に当協議会の委員にご就任いただいている。



※協力医療機関は資料5のとおり

(2) 福島ユニットセンター実施体制

1) 平成23年1月

事業開始時は、県北及び相双地域の10市町村を対象として、福島県立医科大学内において事務3人、RC(リサーチコーディネーター)2人の計5人で業務を担当した。

2)平成24年 4 月

事業開始直後の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で双葉郡内はリクルートが中断、参加者の行方等の確認や県北地域の 4 市町への調査対象地域拡大等により、スタッフを増員し、事務8人、RC 6 人の計14人で調査に当たった。

3)平成24年10月

調査対象地域の拡大に伴い、平成24年10月に新たに郡山市内に事務所を設置するとともに、その支所を白河市、会津若松市及びいわき市に置いた。郡山事務所の職員数は開所後急増し、従来の福島本部事務所と合わせて、平成25年度は職員約60人、派遣職員約10人で事業を推進した。

4)平成26年12月～

平成26年11月末をもって郡山事務所の 3 支所を廃止し、また、協力医療機関における常駐業務を終了したことに伴い、郡山事務所の職員数を削減したため、福島本部事務所と合わせて、平成26年度末の職員数は39人となった。

その後の職員数の推移は、平成27年度末41人、平成28年度末40人、平成29年度末42名、平成30年度末38名となっている。（「資料 6」参照）

◎ 資 料

1 学術研究の成果

エコチル調査に関する掲載論文一覧(平成30年度まで)

	タイトル	著者名	雑誌名
1	東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること	橋本 浩一 他	とやま小児保健 年：2012 月：11 巻：10頁：16-18
2	エコチル調査への期待と責任(特集(エコチル調査に求めるもの-環境リスクから子どもを守るために-))	橋本 浩一	化学物質と環境 年：2014 月：5 巻：125頁：7-8
3	福島ユニットセンターの活動	橋本 浩一	チャイルドヘルス 年：2014 月：3 巻：19頁：48-49
4	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」	橋本 浩一 他	福島県保健衛生雑誌 年：2016 月：3 巻：27頁：28-32
5	The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture - A progress report on the enrollment stage (福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」-リクルート期間の進捗報告)	橋本 浩一 他	Fukushima Journal of Medical Science 年：2017 月：8 巻：63(2)頁：57-63
6	小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」詳細調査から	佐藤 晶子 他	福島県保健衛生雑誌 年：2017 月：3 巻：29頁：14-18
7	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と取り組み	佐藤 晶子 他	福島県保健衛生雑誌 年：2018 月：3 巻：31頁：25-31
8	The Effect of Maternal Age at the First Childbirth on Gestational Age and Birth Weight : The Japan Environment and Children's Study (JECS) 母体年齢が初回分娩における妊娠週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)	経塚 標 他	J Epidemiol. 年：2019 月：5 巻：29(5) 頁：187-191 オンライン掲載 2018年8月4日
9	The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture : Pregnancy Outcome after the Great East Japan Earthquake (福島県のエコチル調査：東日本大震災後の妊娠帰結)	経塚 標 他	Tohoku J Exp Med. 年：2018 月：9 巻：246(1) 頁：27-33
10	Risk of preterm birth, low birthweight and small-for-gestational-age infants in pregnancies with adenomyosis : A cohort study of the Japan Environment and Children's Study. 子宮腺筋症が分娩週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)	山口 明子 他	Acta Obstet Gynecol Scandinavica. 年：2019 月：3 巻：98(3) 頁：359-364 オンライン掲載 2018年10月26日
11	大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～	尾形 優香 他	福島県保健衛生雑誌 年：2019 月：3 巻：33頁：52-57

2 エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況

※エコチル調査第三次中間評価のために環境省に提出したもの。

(P)計画

指標：「現参加者の減少率を年1%以内にとどめるとともに、質問票の年間回収率(発送後6か月時点)を80%以上に維持する。」指標達成のため、次の項目に取り組む。

1参加意識の維持向上

(1)子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施

①エコチルふれあい会の開催

参加者と直接顔の見えるコミュニケーションのとれる貴重な機会であり、県内6地域で計16回開催する。これまでの親子及び保護者対象の企画に加え、今年度は新たに学童期を対象に制作ワークショップを取り入れた内容で企画し実施する。

②環境セミナーの開催

環境については関心が高いことから、保護者を対象とした講演会を開催する。

(2)質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成

学童期検査開始など転換期を迎え、参加者および関係者と調査の意義や成果を共有するため、質問票単純集計結果報告書(リーフレット)を作成する。

2詳細調査の利便性の向上

2歳時に比べ、4歳詳細調査の欠測数が大幅に増加している。その理由として仕事の都合や検査曜日時間に都合がつかないなど日程が合わないことが大半を占めており、ユニットセンターの検査設定により欠測を防げる可能性があることが判明したことから、参加者が検査を受けやすい環境を整備する。

3ニュースレター「転送不要」の実施(現住所への確実な質問票の送付を目的とし、ユニットセンターが発行するニュースレターの送付を「転送不要」扱いとする)(新規)

あて先不明で返戻された時には、参加者へ速やかに連絡し転居先を確認する。それでも確認できない場合、リクルート時の同意に基づき自治体へ住所照会を実施している。(継続)

平成29年度末までに住所照会により住所が判明した事例の多くは、照会日より1年以上前に転居している。あて先不明となるまでの期間との差が生じる一つの理由に、参加者の郵便物の転送サービス利用が考えられる。実際の転居から照会日までの間に、さらに転居したため追跡不能となり、住所が判明しなかった事例もある。

このため、住所変更に早期に対応し、質問票等を確実に届けるため、全参加者に対し「転送不要」扱いで、次のとおりニュースレターを郵送する。

ニュースレター発行時期	福島本部事務所	郡山事務所
平成30年6月末	次号から「転送不要」とする案内	準備
平成30年9月末	「転送不要」扱い開始	次号から「転送不要」とする案内
平成30年12月末	継続	「転送不要」扱い開始

	現在、2週間ごとの質問票発送に関連した住所確認作業は年間約130件あるため、「転送不要」扱いによる早期の住所確認は、ユニットセンター質問票発送作業移管後の関連業務の効率化につながることが期待される。 4 質問票回収状況の分析と対策(継続) 福島本部事務所および郡山事務所全体調査担当者が定期的にミーティングを開催し、質問票の回収率維持についてデータを基に対策を検討する。
(D)実施	1 参加意識の維持向上 (1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施 ① エコチルふれあい会の開催 計画した16回のうち、10月末までに10回開催し252人の親子交流し、リトミック、キッズダンス、笑いヨガ等で楽しんだ。 このうち今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会(制作ワークショップ)を27名の参加を得て計画どおり7月31日に実施した。 また、参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施した。 ② 環境セミナーの開催 平成31年2月の実施に向けて、テーマ及び講師を決定し、準備を進めている。 (2) 質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成 妊娠中から4歳6ヶ月までの子育てに関する質問事項のうち約30項目の結果をまとめたリーフレットを作成した。 編集に当たっては、ご覧になられた方にとってわかりやすい表現になるよう努めた。また、環境省のエコチル調査ホームページに掲載されている全国データを用いた成果発表一覧を案内する等、広く調査結果を伝えられるように内容を工夫した。 なお、作成したリーフレットは、今年度中に参加者や関係者に配付する予定である。 2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上 参加者が検査を受けやすい環境を整備するため、次のとおり実施した。 ア 詳細調査参加者614名を対象に、6歳詳細調査日程調整に関する意向調査を6月から7月にかけて実施した。 なお、回答は540件で回収率は87.7%であった。 イ 意向調査の結果に基づき、6歳詳細調査の曜日や時間帯などの利便性の向上を図るため、県内各地域の個人医院に協力をいただくよう準備を進めている。 3 ニュースレター「転送不要」の実施 福島本部事務所で、平成30年9月末に「転送不要」扱いでニュースレターを5,032部郵送した結果、171件(3.4%、平成30年10月31日現在)があて先不明で返戻された。現在、電話又はショートメールで参加者への転居確認作業を行い、確認済は132件である。 郡山事務所では、次号発送分から「転送不要」扱いにする旨を9月末に参加者に案内し、予定どおり12月末の発送分より実施する予定である。

	4 質問票回収状況の分析と対策 福島本部事務所及び郡山事務所の質問票調査担当者が、毎月同じ指標で回収状況を含む全体調査の進捗状況を報告するようにし、これにより得られたデータを基に、質問票の回収率維持について対策を検討するため、両事務所の全体調査担当者による定期的なミーティングを開催した。
(C)評価	1 参加意識の維持向上 (1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施 ① エコチルふれあい会 ふれあい会の参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施したところ、回収率は98.4%であり、「満足」及び「まあまあ満足」との回答は96.0%であった。 また、今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会には親子27名が参加したが、その満足度は100%で高かった。この学童期対象の参加者は、これまでふれあい会に参加していない人の割合が50%で、子ども及び保護者対象とした企画での割合34.4%に比べて高かったことから、新たなイベント参加者を生み出すことができたものと考えている。 ② 環境セミナーの開催 平成31年2月に開催する環境セミナーにおいても、新たな参加者の増加に期待しており、アンケートを実施し、評価する予定である。 (2) 質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成 配付後の活用状況等については、今後アンケート調査を行うなどして評価する予定である。 2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上 参加者へ検査協力の都合をつけやすい条件についての質問項目の集計により、現在実施している平日午前から午後3時ごろまでの設定で、6歳医学的検査において都合をつけやすいと回答した方は、およそ40%にとどまった。 この結果から、利便性の拡大が必要であると判断し、県内2次医療機関および個人医院に協力を依頼した。その結果、4歳医学的検査実施機関は10施設であったが、6歳医学的検査は、新たに21施設の協力を得て計31施設に増やし、また土曜日や夕方の時間帯など対応時間を拡大し実施する予定である。こうした取組により、多忙な参加者から協力を得るための利便性を向上させることができると考えられる。 3 ニュースレター「転送不要」の実施 福島本部事務所では、1回のニュースレター発送で、従来約20件程度が返戻されていた。「転送不要」扱いとすることで、約8倍のあて先不明件数となった。確認作業開始から約1か月間で132件(77.2%)の転居先等を確認し、残り39件(22.8%)の参加者の状況が未確認である。また、10月中旬にコアセンターから発送された質問票の返戻件数は3件で、上半期の件数との差はみられなかった。これは確認作業中であったためと考えられ、11月以降の返戻件数は減少し、効率よく質問票が参加者に届けられることができると期待している。 これらの取組により、質問票が参加者へ確実に郵送できる可能性が高まったと考えられ、今後郡山事務所においても同様に実施する予定である。

4 質問票回収状況の分析と対策

平成30年9月末現在、当ユニットセンターの質問票総発送数110,500件に対し発送後6ヶ月時点での回収数は94,908件であり、回収率は85.9%である。質問票の回収率(発送後6ヶ月時点)を80%以上に維持するという指標は現時点で達成できている。

しかし、他ユニットセンター平均回収率と同様に年齢が上がるとともに回収率が低下する傾向であるとともに、2歳半質問票以降ユニットセンターの質問票回収率について、平成29年9月末時点(第86回実務担当者WEB会議資料)と平成30年9月末時点(第98回実務担当者WEB会議資料)の回収率および他ユニットセンターとの平均の差を比較すると、質問票の発送スケジュールが進むにつれ他ユニットセンター平均回収率より若干下回る傾向がみられるものの、全ユニットセンターとほぼ同様の水準を維持している(表1)。

表1 福島UCと他UC平均回収率推移とその差

検討時期	回収率	6か月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳	4歳半	5歳	5歳半	6歳
平成29年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	84.9%	83.0%	80.7%	80.0%	79.4%	78.6%	77.2%	発送後 6か月 未満
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.1%	85.4%	83.9%	81.6%	80.2%	78.4%	75.6%	75.7%	
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.2%	0.5%	-0.5%	-1.0%	-0.9%	-0.2%	1.1%	3.0%	1.4%	
平成30年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	85.0%	82.7%	79.2%	77.7%	76.6%	74.5%	76.1%	76.2%
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.2%	85.6%	84.3%	81.7%	80.3%	78.5%	76.1%	77.2%	76.6%
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.1%	0.5%	-0.6%	-1.6%	-2.5%	-2.6%	-1.9%	-1.6%	-1.1%	-0.5%

* グレー：現在も発送中の質問票、** 発送後6か月以上のデータを使用

当ユニットセンターの特殊性を把握するために、現在実施している4歳、5歳、6歳質問票の出生年及び事務所毎の回収率を比較した(表2)。この結果、出生年次を追うごと回収率が低下傾向にあること(両事務所共通)や、郡山事務所独自の取組としてお礼のショートメールを送っているものの、福島本部事務所より低い傾向にあることがわかった。

このため、回収率の維持向上を図るためには、参加者全員への取組はもちろんであるが、平成24年以降の出生、及び郡山事務所管轄の参加者の参加意欲の向上につながるような効果的な対応策を検討していく必要がある。

表2 出生年、事務所ごとの質問票回収率

	4歳	5歳	6歳
福島本部 H23年出生	82.2%	80.3%	77.1%
郡山 H23年出生	83.0%	80.9%	78.7%
福島本部 H24年出生	80.2%	74.6%	74.9%
郡山 H24年出生	76.2%	70.2%	77.5%
福島本部 H25年出生	77.1%	73.5%	未実施
郡山 H25年出生	75.3%	68.3%	未実施
福島本部 H26年出生	76.0%	未実施	未実施
郡山 H26年出生	72.7%	未実施	未実施

* グレー：現在も発送中の質問票、** 発送後6か月以上のデータを使用

表3 現参加率の推移

	出生件数	転出	転入	打ち切り	うち死亡	現参加者数	現参加率*
平成29年9月29日時点	12,867	38	104	355	23	12,543	97.5%
平成30年9月28日時点		71	116	453	23	12,459	96.8%

※現参加率は、平成29年度年次評価表1に基づき算出。転出入を考慮した現参加率は、平成29年9月29日時点97.0%、平成30年9月28日時点96.5%であり、マイナス0.5ポイントであった。

	【総合評価：指標に対する評価】 上記の取組との直接的な因果関係は分析していないが、過去1年間の転出入件数を調整していない協力取りやめ、同意撤回などによる子ども現参加率の減少は、マイナス0.7ポイントであり、現参加者の減少率を1%以内にとどめることができた。(表3) また、既述のとおり質問票の回収率についても80%以上を維持している。 以上により、指標は達成できている。
(A)改善	1 参加意識の維持向上 今年度、新たに取り組んだ「環境セミナーの開催」や「リーフレットの作成」については、今後アンケート調査を行うなどして評価を行うこととしており、その評価結果を踏まえて必要な改善を図っていく。 2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上 6歳医学的検査の実施に当たり、協力医療機関の増加や実施する曜日及び時間帯の拡大が、参加者にとって利便性の向上につながったか、また職員にとって日程調整の負担が軽減されたかなど、検討していきたい。 3 ニュースレター「転送不要」の実施 郡山事務所で、計画どおりニュースレターの12月末の発送分から、「転送不要」扱いを実施し、年度内に返戻郵送物のあて先確認作業を行う。 また、両事務所での確認作業後の質問票発送後返戻件数の推移をモニタリングし、この計画が、質問票発送作業の効率化に関連しているか検討する。 4 質問票回収状況の分析と対策：全体調査担当者会議の機能強化等 回収率の低下など全体調査に関する課題を解決するため、担当者会議を定期的で開催し対応を検討してきたが、評価の結果を踏まえ、課題に対して、計画、実施、評価、改善までのアクションがスムーズに行われるよう当該会議の機能強化を図っていく。 特に、下半期では今後質問票回収率が全国平均と比較してマイナス1ポイントを下回らないことを目標とし、事務所(地域)ごとの現状の分析を進めさらなる対応策を検討する。

3 ニュースレター：2018年夏号(平成30年7月発行)

「抗っていき」フォト

このフォトは、本校の児童が「抗っていき」のテーマで撮影したものです。写真の中心には、児童の笑顔が輝いています。背景には、自然の風景が広がっています。写真の右下には、児童のコメントが記されています。

「抗っていき」のテーマは、児童が自分自身と向き合い、困難を乗り越える力を身につけることです。写真を通じて、児童の成長と努力が伝わります。

「今、テレビなどで」気になる「ウイルス感染症」

新型コロナウイルス感染症の発生により、多くの人々が不安を感じています。しかし、正しい知識と対策があれば、感染を防ぐことができます。

1. 手洗いを徹底する
2. 咳エチケットを守る
3. 人混みを避ける
4. 体調不良の際は、医療機関を受診する

学校では、感染症対策として、消毒や検温を行っています。児童も、正しい知識を持って、感染症と向き合ってください。

「はしか」について

はしかは、感染力が非常に強いウイルス感染症です。予防接種を受けることで、感染を防ぐことができます。

1. 予防接種を受ける
2. 咳エチケットを守る
3. 人混みを避ける
4. 体調不良の際は、医療機関を受診する

学校では、はしかの予防接種を行っています。児童も、積極的に接種を受けてください。

エコチル★ふくしま通信

2018年夏号

いよいよ学習期の新たなステージへ

本校では、学習期の新たなステージへと進んでいます。児童も、新しい気持ちで学習に取り組んでいます。

1. 学習の意欲を高める
2. 授業の理解を深める
3. 課題を達成する

学校では、学習の意欲を高めるための取り組みを行っています。児童も、積極的に取り組んでください。

nanaoポイントの失効期にお早めに電子マネーに交換

nanaoポイントは、2018年9月30日をもって失効します。お早めに電子マネーに交換してください。

交換方法：nanaoポイントカードを提示し、電子マネーに交換します。

交換場所：nanaoポイント加盟店

エコチル調査⑥ わかったこと

今日は、児童がテーマに指定された調査結果を、児童会から発表しています。児童も、興味を持って聞いています。

～最近1か月間の食べ方をふりかえっての質問です～

みなさんの食生活は、どうなっていますか？

2つのアンケート結果を、児童会から発表しています。

おしえて先生！ あんなこと、こんなこと

児童会から、先生に質問が寄せられています。先生も、丁寧に答えています。

小児の食物アレルギー

小児の食物アレルギーは、近年増加しています。正しい知識と対策で、アレルギーと向き合ってください。

1. 食物アレルギーの症状を知る
2. 食物アレルギーの予防法を知る
3. 食物アレルギーの対応法を知る

学校では、食物アレルギーの対応法について、児童に教えています。

エコチル★ふくしま通信

2018年夏号

エコチルふれあい

児童が、エコチルふれあいの活動に参加しています。児童も、楽しんでいます。

エコチルふれあい

児童が、エコチルふれあいの活動に参加しています。児童も、楽しんでいます。

エコチルふれあい

児童が、エコチルふれあいの活動に参加しています。児童も、楽しんでいます。

エコチルふれあい

児童が、エコチルふれあいの活動に参加しています。児童も、楽しんでいます。

ニュースレター：2018年秋号(平成30年9月発行)

[illegible][illegible]

ニューズレター：2018年冬号(平成30年12月発行)

「振ってあそびフォト」

「振ってあそびフォト」は、子どもたちが自分の好きなポーズで写真を撮ることができる、新しい写真撮影方法です。

このコーナーのホームページのトップページに、振ってあそびフォトの写真を掲載しています。

「気になる感染症」

感染症は、身近な病気です。感染症は、ウイルスや細菌が原因で起こります。感染症は、予防することが大切です。

感染症の予防には、手洗いやマスクの着用が大切です。また、ワクチンの接種も大切です。

感染症の予防には、手洗いやマスクの着用が大切です。また、ワクチンの接種も大切です。

2019年エコチルカレンダー

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査のホームページは、エコチル調査の最新情報を提供しています。

エコチル調査のホームページは、エコチル調査の最新情報を提供しています。

エコチル ふくしま 通信

エコチル調査の最新情報を提供しています。

エコチル調査 8年目を迎え、成果を皆様の手に

エコチル調査は、平成25年度から平成30年度まで、8年目を迎えました。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

第77回日本公衆衛生学会の中でエコチル調査国際シンポジウムが開催されました

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

子育て支援のご案内

子育て支援の最新情報を提供しています。子育て支援の最新情報を提供しています。

子育て支援の最新情報を提供しています。子育て支援の最新情報を提供しています。

エコチル調査 わかったこと

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

おしえて先生！あんなこと、こんなこと

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。エコチル調査の成果をまとめたカレンダーです。

エコチル ふくしま 通信

エコチル調査の最新情報を提供しています。

エコチル調査の最新情報を提供しています。エコチル調査の最新情報を提供しています。

エコチル調査 イベントスケジュール

エコチル調査の最新情報を提供しています。エコチル調査の最新情報を提供しています。

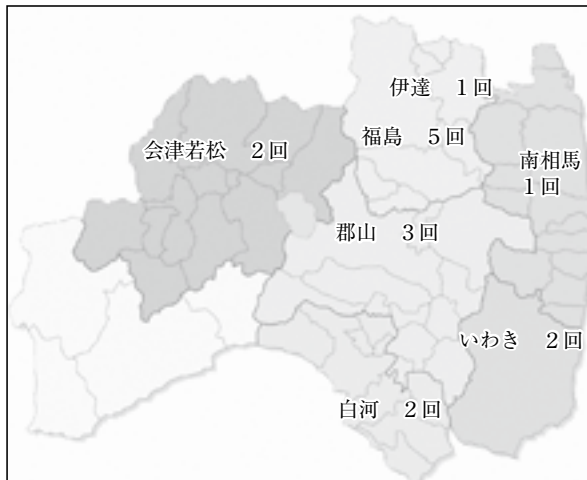
エコチル調査の最新情報を提供しています。エコチル調査の最新情報を提供しています。

4 エコチルふれあい会の実施状況

ふれあい会は、福島のお子さんの成長をともに見守るための企画として平成25年度から開始した。ふれあい会は、スタッフにとって親子のふれあい・遊びの場や育児相談などを通じて、福島ユニットセンターのモットーである参加者さんとの「顔が見える」コミュニケーションを具体化できる貴重な機会として実施している。

(1)開催状況

平成30年度は県内6地域で計16回開催した。



開催地域	開催市町村	開催日	内容
県北	福島市	平成30年5月1日(火)	母親ストレッチ
		7月31日(火)	全県学童対象ワークショップ
		8月7日(火)AM	キッズダンス
		8月7日(火)PM	キッズダンス
		11月6日(火)	笑いヨガ
県中	郡山市	平成30年8月20日(月)	キッズダンス
		平成30年8月31日(金)	子育てワークショップ
		9月7日(金)	3B体操
県南	白河市	12月8日(土)	親子リトミック
		平成30年10月19日(金)	笑いヨガ
会津	会津若松市	平成31年3月9日(土)	親子リトミック
		平成30年5月26日(土)	親子リトミック
相双	南相馬市	11月16日(金)	子育てワークショップ
いわき	いわき市	平成29年9月30日(土)	親子リトミック
		平成30年6月22日(金)	笑いヨガ
		平成31年2月23日(土)	子育てに関する参加型ワークショップ

(2)各対象者のふれあい会の様子

4－6歳児親子ふれあい会

キッズダンス・親子リトミックなどを親子で一緒に楽しみました。



学童対象親子ふれあい会



まほうの水で絵を描いて、素敵なマイ・ランチバックを作りました。(霊山子どもの村)

保護者ふれあい会

笑いヨガや子育てワークショップ、ストレッチや3B体操で
楽しく有意義な時間を持つことができました。



(3)ふれあい会アンケート結果

アンケートは、参加者からふれあい会を含むユニットセンターが行っている事業についてのご意見をいただく貴重な機会であり、ふれあい会実施毎に実施している。いただいたご意見・ご要望は、参加者さんとのコミュニケーション活動計画や実施の改善に役立てている。以下は平成30年度に寄せられたご意見・ご感想をまとめたものである。

1)ふれあい会参加について

① ふれあい会に参加しての満足度

ふれあい会に参加された147名を対象に、「本日のふれあい会に参加されていかがでしたか」と尋ねたところ、「満足」「やや満足」と答えた方は、141名であり、96%以上の方に満足していただいた。

② 自由記載に寄せられた感想、意見等

○4－6歳児対象ふれあい会(キッズダンス)

- ・ たっぷり体を動かすことができ、楽しんで参加できた。
- ・ 仕事をしていると一緒に過ごす時間が限られてしまうので、体をめいっぱい動かして楽しかった。
- ・ 普段こんなに体を動かすことがないので、とても楽しく子どもと遊べてよかった。
- ・ 下の子を安心してみてもらうことができ、久々に上の子と楽しく2人の時間を過ごすことができた。
- ・ 前回と比べ、子どもの成長が感じられ、とてもよかった。子どももとても生き生きして楽しそうだった。他の子どもさんの様子を知ることができてよかった。
- ・ 夏休み、毎日何をして過ごそうかと頭を悩ませていたので、とても楽しい時間をプレゼントしていただき、ありがとうございました。
- ・ 本当に楽しい楽しいふれあい会でした。常々、子どもにダンスを習わせたいと思っていたので、これが良いきっかけになってくれるといいなと思っている。

○4－6歳児対象ふれあい会(リトミック)

- ・ 子どもが終始楽しそうで良かった。体を動かすリトミックはとてもよかった。
- ・ リトミックでは子どもが楽しそうにしている姿を見れてよかった。
- ・ 保育園以外の友達と遊ぶ機会がなかったので、とてもよかった。
- ・ 体がなまっていたので、親子で楽しく運動やダンスができてとても楽しかった。また、こういった機会があったら是非参加したい。

○学童期

- ・ 下の子も一緒に参加できて楽しかった。また参加したい。
- ・ とても楽しかった。子どもたちが遊ぶ施設なので、多少うるさくても気にならず過ごしやすかった。また参加したい。
- ・ お絵かきは大好きなので、とても楽しめました。
- ・ 場所は遠かったけど、子どもがのびのびと取り組んでいてよかった。

○保護者対象ふれあい会

(笑いヨガ・おしゃべりタイム)

- ・ おしゃべりタイムがよかった。悩みを共有できてよかった。
- ・ ストレス解消になった。たくさん笑って楽しかった。
- ・ 初めて笑いヨガを体験したが、たくさん笑うことができてすっきりした。
- ・ 笑いヨガで、体と心がポカポカして楽しかった。
- ・ 笑うことがなかったので、笑顔で笑うように心がけたい。

(子育てに関する参加型ワークショップ)

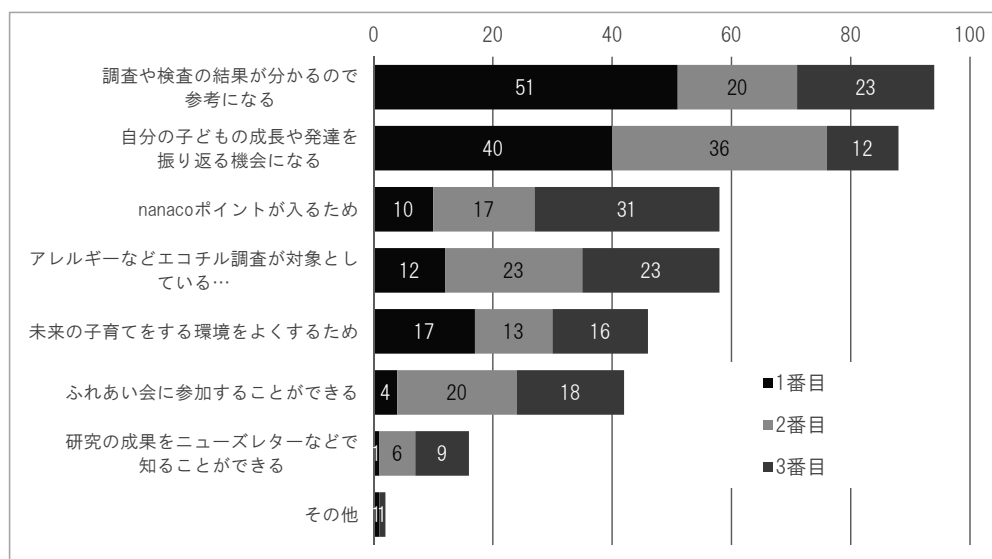
- ・ 日々子育てについて悩んでいるが、参加したお母さんたちの話を聞いて自分だけではな

いことが認識しでき気持ちが楽になった。

- ・参加されたお母さん方と情報交換、共感することができてよかった。
- ・情報交換の場がなかったり、自分から話すのが苦手なので、こういった機会はうれしかった。
- ・保護者の交流の機会が増えるとうれしくなる。

2) エコチル調査への参加理由

ふれあい会に参加された244名を対象に参加理由を尋ねた。215名の方から理由に順位をつけて三つまで回答していただいた結果、次のグラフのとおりであった。(回答率：88%)



5 エコチル調査協力医療機関・施設一覧(平成31年3月31日現在)

1)産科協力機関(リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当	備考
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所	
2		明治病院	福島市		
3		いちかわクリニック	福島市		
4		ささや産婦人科	福島市		
5		新妻産婦人科	福島市		
6		本田クリニック産科婦人科	福島市		
7		済生会福島総合病院	福島市		
8		大原総合病院	福島市		
9		福島県立医科大学附属病院	福島市		
10		大川レディースクリニック	福島市		
11		菅野産婦人科医院	福島市		
12		セイントクリニック	伊達市		
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市		
14		社会保険福島 二本松病院(旧名称)	二本松市		平成25年3月31日終了
15		渡辺医院	二本松市		
16		谷病院	本宮市		
17	県中	たなかレディースクリニック	郡山市	郡山 事務所	
18		岡崎産婦人科	郡山市		
19		寿泉堂総合病院	郡山市		
20		塚原産婦人科内科外科医院	郡山市		
21		トータルヘルスクリニック	郡山市		
22		太田西ノ内病院	郡山市		
23		星総合病院	郡山市		
24		総合南東北病院	郡山市		
25		古川産婦人科医院	郡山市		
26		国立病院機構福島病院	須賀川市		
27	県南	小森山産婦人科医院	須賀川市		
28		片倉医院産科婦人科	白河市		
29		白河厚生総合病院	白河市		
30		塙厚生病院	東白川郡		
31	会津	岩佐医院	茨城県久慈郡		福島県民のみリクルート
32		舟田クリニック産科婦人科	会津若松市		
33		竹田総合病院	会津若松市		
34		会津中央病院	会津若松市		
35	相双	坂下厚生病院	河沼郡	福島本部 事務所	
36		あらき産婦人科クリニック	相馬市		
37		南相馬市立総合病院	南相馬市		エコチル調査リクルート中断
38		レディースクリニックはらまち	南相馬市		
39		西潤マタニティクリニック	南相馬市		
40		原町中央産婦人科	南相馬市		
41		大町病院	南相馬市		
42		双葉厚生病院	福島市飯坂		
43		今村クリニック	双葉郡浪江町		
44	いわき	公立相馬総合病院	相馬市	郡山 事務所	
45		村岡産婦人科医院	いわき市		
46		渡辺産科婦人科	いわき市		
47		かたよセクリニック産科・婦人科	いわき市		
48		NOBUマタニティクリニック	いわき市		
49		いわき市医療センター	いわき市		
50		森田泌尿器科産婦人科医院	いわき市		
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市		
52		月川レディースクリニック	いわき市		
53		佐藤マタニティー・クリニック	いわき市		

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設

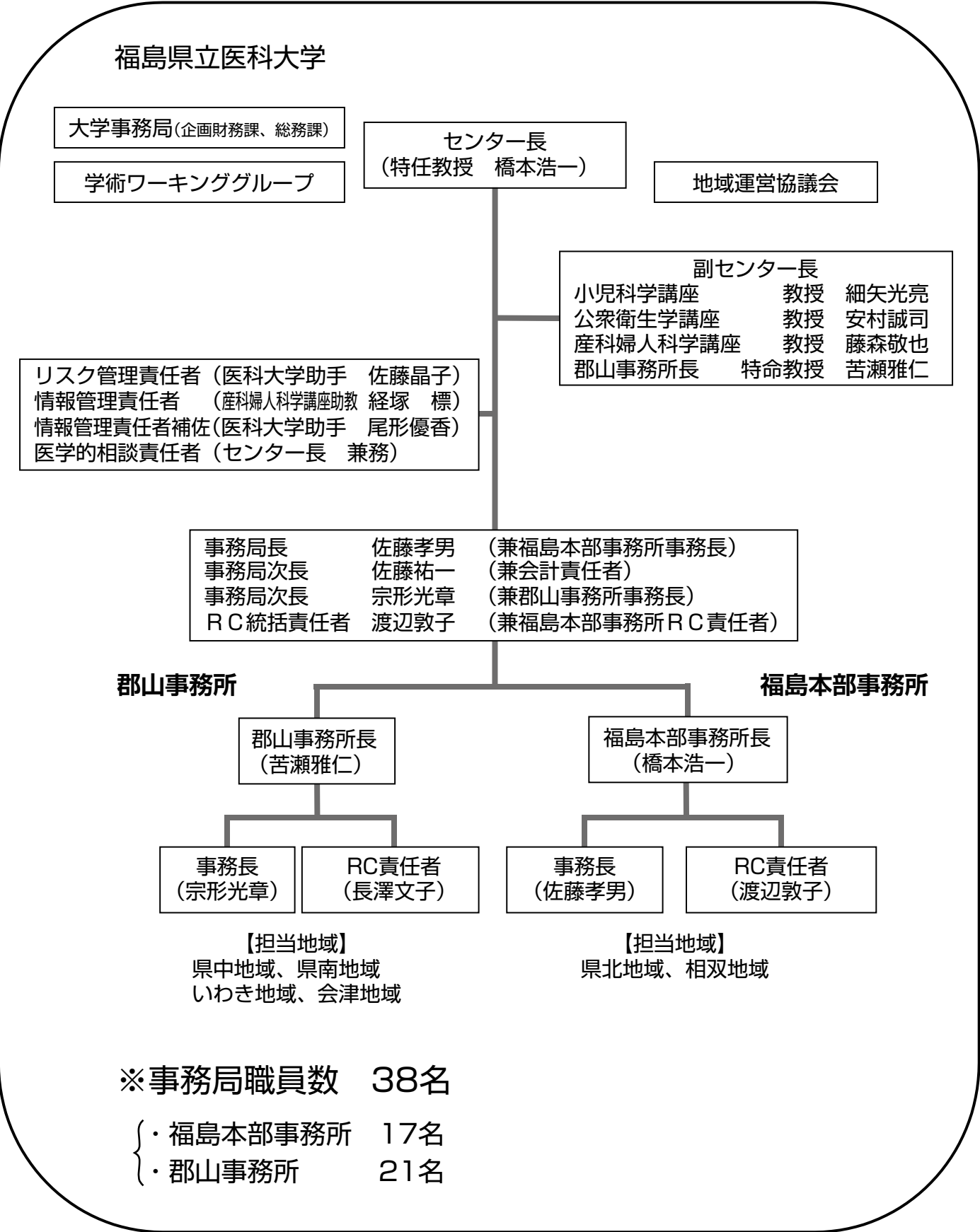
	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当	医学的検査	発達検査
1	県北	公立藤田総合病院	国見町	福島本部 事務所	○	検査会場借用
2		大原総合病院	福島市		○	
3		福島県立医科大学附属病院	福島市		○	○
4	相双	公立相馬総合病院	相馬市		○	検査会場借用
5	県中	星総合病院	郡山市	郡山 事務所	○	○
6		太田西ノ内病院	郡山市		○	○
7		国立病院機構福島病院	須賀川市		○	
8	県南	白河厚生病院	白河市		○	検査会場借用※
9	会津	竹田総合病院	会津若松市		○	○
10		福島県立南会津病院	南会津町		○	検査会場借用
11	いわき	いわき市医療センター	いわき市		○	検査会場借用
12		子どもの家	いわき市			○

※白河厚生総合病院においては5月末まで白河厚生総合病院所属の心理士が検査を担当した。

3) 平成30年度 疾患情報登録協力医療機関

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	県北	大原総合病院	福島市	福島本部事務所
2		福島県立医科大学附属病院	福島市	
3		福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市	
4		福島赤十字病院	福島市	
5		公立藤田総合病院	国見町	
6		こばやし子どもクリニック	伊達市	
7		いそめこどもクリニック	福島市	
8		すえなが内科小児科クリニック	福島市	
9		森小児科医院	二本松市	
10	相双	公立相馬総合病院	相馬市	郡山事務所
11	県中	寿泉堂総合病院	郡山市	
12		太田西ノ内病院	郡山市	
13		星総合病院	郡山市	
14		太田熱海病院	郡山市	
15		総合南東北病院	郡山市	
16		福島県総合療育センター	郡山市	
17		公立岩瀬病院	須賀川市	
18		国立病院機構福島病院	須賀川市	
19	県南	白河厚生総合病院	白河市	
20	会津	竹田総合病院	会津若松市	福島本部事務所
21		福島県立南会津病院	南会津町	
22	いわき	いわき市医療センター	いわき市	
23	県外	茨城県立こども病院	茨城県	
24		公立昭和病院	東京都	
25		成育医療研究センター	東京都	
26		自治医科大学附属病院	栃木県	
27		順天堂大学医学部附属練馬病院	東京都	

6 平成30年度福島ユニットセンター組織図(平成31年3月31日現在)



————— 編集・発行 —————

福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

*お問合せ窓口 TEL 024-547-1449

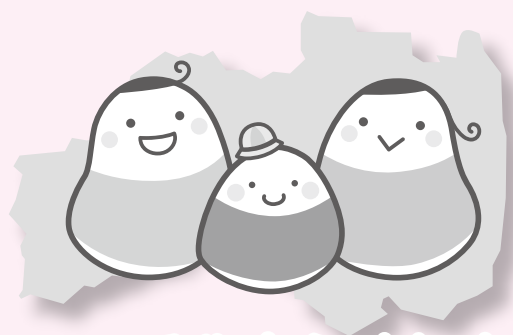
エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8024 福島県郡山市朝日3丁目6番4号

レジデンス朝日第2ビル2階

TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

*お問合せ窓口 TEL 024-983-4780



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima